

エアコン「2027年問題」

エアコンの省エネ基準が厳しくなる「**2027年問題**」によって夏本番前に駆け込み需要が発生しています。2027年4月以降の新基準のエアコンより、現行基準のエアコンのが割安なことが原因です。土日の設置工事は現在1カ月以上待ちの状態、工事不要の安価な小型クーラーに消費者が流れています。

2027年問題とは

日本では家電製品に「**トップランナー制度**」という省エネ基準が設けられています。その時点で最も省エネ性能が高い製品(トップランナー)を基準に将来の目標を定め、省エネ性能の向上を促す仕組みです。エアコンは家庭の電力消費量の中でも大きな割合を占める家電であり、省エネ性能の向上によって**脱炭素への貢献**が期待されているため、この制度に基づいて、2027年4月からエアコンの省エネ基準が引き上げられます。27年4月以降、メーカーは出荷製品全体で**基準達成が求められ、低価格帯など一部機種が削減される**可能性があります。新基準を満たすモデルは熱交換器の性能向上のためアルミや銅などの使用量が増えるため、「**本体価格はおおむね1~2割高くなる**」と想定されています。

新基準のエアコンの電気代はどうなる？

省エネ性能の高いエアコンは初期費用こそ高いが電気代は安くなります。新基準を満たした製品では6畳用で**年間約3000円**、14畳用では**年間1万円**以上電気代を抑えられる、といわれています。エアコンの平均寿命とされる**約10年間**使い続ければ製品価格の上乗せ分は**十分吸収できる**と想定されています。



現在のエアコン価格は？

日本冷凍空調工業会の調査では銅価格高騰などの影響で、**平均単価（出荷額÷出荷台数）は5年で約13%上昇**しています。さらに昨今、中東情勢に伴うナフサ価格の供給不安を受けて、6月1日から**銅の配管資材などが20%以上値上げ**されることからエアコン価格は今後更に高くなるのは避けられない状況です。

まとめ

エアコンの使用期間が**10年以上経過**している場合は、注意が必要です。エアコンの寿命は一般的には**10~15年**です。2027年4月以降に、故障した場合は、**旧モデルの部品供給の先細り**から**修理ができない**等の問題が起きることも考えられます。エアコン需要が高まる夏の時期に故障した場合は最悪です。できましたら余裕がある時期に一度じっくりご検討されることをおすすめします。